

「琉球遺産考」 塚越としを

遠<sup>お</sup>ちの海一望碧し城の春

城壁に祭祀の跡や桜散る

拝所てふ春の闇なす岩の襞<sup>ひだ</sup>

シーサーを守護神として光る風

石橋に薔薇赤く映え識名園<sup>しきなえん</sup>

泡盛<sup>ふぶ</sup>を含み祈りの場を浄む

椰子の葉に月朧なす露天風呂

首里城<sup>うたき</sup>の御嶽に春のかづら草

唐破風<sup>からふ</sup>や春の夢見る番<sup>つが</sup>ひ龍

玉陵に眠る王たち灸花<sup>やいとばな</sup>

◆琉球遺産：西暦二、〇〇〇年、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」がユネスコの世界遺産に

登録された。首里城（国王の居城）を含む五つのグスク（城）とその他四つの遺跡からなる。グスクは沖縄本島に点在、台地に見事な石垣が残っている。沖縄版・天空の城ということ尚、琉球王国は一四二九年から四五〇年間、首里城を核として独立、栄華を誇った。

◆祭祀の跡：御嶽（うたき）と呼ばれる聖地が各グスク等に存在し、ここは国をあげて祈りの空間で、神域である。国王及び最高神女・聞得大君（きこえおおきみ）の息吹が残っている。

◆桜散る：沖縄の桜は緋寒桜であり、一月から二月に咲く。この花は遅咲きである。

◆シーサー：琉球伝承の獅子の像。魔除けとして、建物の門・屋根の上などに置かれている。

◆識名園：王家の別邸であり、迎賓館でもある。心字池に琉球石灰岩を使った大小二連の石橋がかかる。

◆玉陵：第二尚氏王統の巨大な陵墓で、宮殿を模した石造りの墓室に歴代の王が眠っている。

平成二十七年三月